

MORITAGOLF モリタゴルフ

による「愚行」や、若い命が失われる事故が後を絶たなかったのも事実である。

悲しいことだが、悪質な飲酒運転が繰り返されてきたから、先進的な対策が講じられるようになったという一面は確かにあると思う。だが、次の対策が、大きな事故の後である必要はない。もう悲劇はごめんだ。目標は飲酒運転ゼロ。通り一遍の方法で実現するのは難しいかもしれない。何をすべきか、考え続けたい。(中原興平)

全ての子に「可能性」を

優秀な大学生や社会人をスカウトして研修し、

貧困地域などの学校に派遣する米国の団体をモデルにした教育NPO法人

「Teach For Japan(TFJ)」。

25歳にして、法人の九州事業部エリアマネジャーを務める。

とはいえ、常勤職員は1人だけ。福岡市中央区の1LDKの自宅を事務所、週半分を生活保護世帯の小中学生の学習支援に、残りをNPOの広報や資金集めに駆け回る。「3年前までは、想像もしなかった毎日です」

岡山市出身。九州大に進学し、福岡市に移り住んだ。転機は、進路を探していた大学4年の夏。町営塾を開くなど教育改革に取り組み島根県の離島に興味を抱き、地元

教育NPO九州事業部を発足

もりやま まどか
森山 円香さん (25)



NPOの活動報告会で支援を求める森山円香さん

町教委に直談判して、半年間就労体験した。

大学は休学。任されたのは、学力不足で高校進学が危ぶまれる中学3年生7人の補習。親の無関心などで家庭で勉強する習慣がなく、小学校で習う基礎でつまづいていて

た。「自分はバカだから」と自嘲する子どもたちの目は生気を失い、学校も

親も見放していた。シヨ

可能性は開く。全ての子

を充足させた。昨秋から

ツクだった。「家庭環境が原因で自分の可能性を閉ざした子どもたちがいることを、初めて目の当たりにしたんです」

TFJは、2010年に東京で設立されたばかりで九州に拠点はなかったが、「あなたが九州事業部をつくれればよい」と

を押し、大学に復学した11年の夏、九州事業部

を充足させた。昨秋から

を充足させた。昨秋から

を充足させた。昨秋から

は、生活保護世帯の小中学生を対象にした福岡市の無料学習会に運営団体として参加。大学生ボランティアを募り、マンツーマンで教える教室を運営している。

親に勉強しなくていいと言われ、家事に追われている子ども、自宅に机すらない子ども……。実感するのは、大人の関心に飢えている子どもが多いことだ。「そういう子は、学校現場でも置き去りにされがち。日本の教職課程は座学が中心で、現場をあまり知らないまま教師になる人が多いからではないでしょうか」

次の目標は、優秀な人材を発掘して常勤講師として学校現場に派遣し、教育現場を内側から変えていくことだ。「そのためには、私たちの活動をもっと多くの人に知ってもらわなくては。九州の顔になる私をもっと力をつけたいといけません」。挑戦は始まったばかりだ。(川口安子)

